

往生繪卷

芥川龍之介

青空文庫

童わらへ やあ、あそこへ妙な法師ほふしが来た。みんな見ろ。みんな見ろ。

鮎すしうり売の女 ほんたうに妙な法師ぢやないか？ あんなに金鼓ごんぐをたたきながら、何だか大

声わめに喚わめいてゐる。……

薪まきうり売の翁おきな わしは耳が遠いせゐるか、何を喚くのやら、さつぱりわからぬ。もしもし、あ

れは何と云うて居りますな？

箔はくうち打の男 あれは「阿弥陀仏あみたぶつよや。おおい。おおい」と云つてゐるのさ。

薪売の翁 ははあ、——では氣違ひだな。

箔打の男 まあ、そんな事だらうよ。

菜なうり売の媪おうな いやいや、難ありがた有おしやうにんい御上人おしやうにんかも知れぬ。私わたしは今の間まに拜まんで置かう。

鮎売の女 それでも憎にく々にくしい顔ぢやないか？ あんな顔をした御上人おしやうにんが何処どこの国こにゐる

ものかね。

菜売の媪 勿もつたい体たいない事を御云おんぐんひでない。罰ばちでも当あたつたら、どうおしだえ？

童 氣違きごひひやい。氣違きごひひやい。

五位ごゐの入道にふだう 阿弥陀仏あみたよや。おおい。おおい。

犬 わんわん。わんわん。

物ものまうで詣よの女房 御覧なさいまし。可笑をかしい法師が参りました。

その伴つれ ああ云ふ莫迦ばかも者は女と見ると、悪戯いたづらをせぬとも限りません。幸ひ近くならぬ内に、こちらの路へ切れてしまひませう。

鑄物師いものし おや、あれは多度たどの五位殿ぢやないか？

水銀みずかねを商ふ旅人 五位殿だか何だか知らないが、あの人^あが急に弓矢を捨てて、出家して

しまつたものだから、多度たどでは大変な騒ぎだつたよ。

青侍あをさむらひ 成程五位殿に違ひない。北の方や御子様たちは、さぞかし御歎なげきなすつたらう。

水銀を商ふ旅人 何でも奥方や御子供衆は、泣いてばかり御出でだとか云ふ事でした。

鑄物師ひうを しかし妻子つまこを捨ててまでも、仏門に入らうとなすつたのは、近頃健気けんけいな御志だ。

干魚ひうをを売る女 何の健気な事がありますものか？ 捨てられた妻子の身になれば、弥陀仏

でも女でも、男を取つたものには怨みがありますわね。

青侍 いや、大きにこれも一理窟だ。ははははは。

犬 わんわん。わんわん。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

馬上の武者 ええ、馬が驚くわ。どうどう。

櫃ひつをおへる従者ずさ 氣違ひには手がつけられませぬ。

老いたる尼 あの法師は御存知の通り、殺生せつしやうず好きな悪人でしたが、よく発心ほっしんしたものですね。

若き尼 ほんたうに恐しい人でございました。山狩や川狩をするばかりか、乞食びきなども遠と矢はやにかけましたつけ。

手に足駄あしだを穿はける乞食 好い時に遇あつたものだ。もう二三日早かつたら、胴中どうなかに矢の穴が明いたかも知れぬ。

栗胡桃くるみなどを商ある主 どうして又ああ云ふ殺さつ伐ばつな人が、頭こを剃そる氣になつたのでせう？
老いたる尼 さあ、それは不思議ですが、やはり御み仏ほとけの御おん計はからひでせう。

油を商ある主 私わたしはきつと天狗か何かが、憑ついてゐると思ふのだがね。

栗胡桃などを商ある主 いや、私は狐だと思つてるのさ。

油を商ある主 それでも天狗はどうかすると、仏に化けると云ふぢやないか？

栗胡桃などを商ある主 何、仏に化けるものは、天狗ばかりに限つた事ぢやない。狐もやつぱり化けるさうだ。

手に足駄を穿ける乞食 どれ、この暇に頸の袋へ、栗でも一ぱい盗んで行かうか。
若き尼 あれあれ、あの金鼓の音に驚いたのか、鶏が皆屋根へ上りました。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

釣をする下衆 これは騒々しい法師が来たものだ。

その伴 どうだ、あれは？ 跛の乞食が駈けて行くぜ。

牟子をしたる旅の女 私はちと足が痛うなつた。あの乞食の足でも借りたものぢや。

皮子を負へる下人 もうこの橋を越えさへすれば、すぐに町でございます。

釣をする下衆 牟子の中が一目見てやりたい。

その伴 おや、側見をしてゐる内に、何時か餌をとられてしまった。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

鴉 かあかあ。

田を植うる女 「時鳥よ。おれよ。かやつよ。おれ泣きてぞわれは田に立つ。」

その伴 御覧よ。可笑しい法師ぢやないか。

鴉 かあかあ。かあかあ。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

暫時ひととき人声こゑなし。松風の音 ころころ。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

再び松風の音 ころころ。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

老いたる法師 御坊ごぼう。御坊。

五位の入道 身共みどもを御呼まねびとめなすつたかな？

老いたる法師 如何いかにも。御坊は何処どこへ御行きなさる？

五位の入道 西へ参る。

老いたる法師 西は海ぢや。

五位の入道 海でもとんと大事だいじござらぬ。身共は阿弥陀仏を見奉るまでは、何処どこまでも西

へ参る所しよぞん存ぞんぢや。

老いたる法師 これは面妖めんえうな事を承るものぢや。では御坊は阿弥陀仏が、今にもありあ

りと目まのあたりに、拝ませられると御思おぼひかな？

五位の入道 思はねば何も大声おほこゑに、御み仏ほとけの名なぞを呼びは致いたさぬ。身共の出家もその為

でござるよ。

老いたる法師 それには何か仔細しさいでもござるかな？

五位の入道 いや、別段仔細なぞはござらぬ。唯一昨日狩を」ととひの帰りに、或講師の説法を聴ちやう

聞もんしたと御思ひなされい。その講師の申されるのを聞けば、どのやうな破戒の罪人で

も、阿弥陀仏に知遇ちくぐし奉れば、浄土に往かれると申す事ぢや。身共はその時体中の血が、

一度に燃え立つたかと思ふ程、急に阿弥陀仏が恋しうなつた。……………

老いたる法師 それから御坊はどうなされたな？

五位の入道 身共は講師をとつて伏せた。

老いたる法師 何、とつて伏せられた？

五位の入道 それから刀を引き抜くと、講師の胸さきへつきつけながら、阿弥陀仏の在処ありか

を責め問うたよ。

老いたる法師 これは又滅相な尋ね方ぢや。さぞ講師は驚いたでござらう。

五位の入道 苦しさうに眼まなこを吊り上げた儘、西、西と申された。——や、とかうするうち

に、もう日暮ぢや。途中に暇を費してゐては、阿弥陀仏の御前おんまへも畏れ多い。では御免ごめん

を蒙かうむらうか。——阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

老いたる法師 いや、飛んだ物狂ひに出合うた。どれわしも帰るとしよう。

三度松風の音 こうこう。更に又浪の音 どぶりどぶり。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

浪の音 時に千鳥の声 ちりりちりちり。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。——この海辺には舟も見えぬ。見えるのは

唯浪ばかりぢや。阿弥陀仏の生まれる国は、あの浪の向ふにあるかも知れぬ。もし身共

が鵜の鳥ならば、すぐに其処へ渡るのぢやが、……しかしあの講師も阿弥陀仏には、広

大無辺の慈悲があると云うた。して見れば身共が大声に、御仏の名前を呼び続けた

ら、答位はなされぬ事もあるまい。されずば呼び死に、死ぬるまでぢや。幸ひ此処に松

の枯木が、二股に枝を伸ばしてゐる。まづこの梢に登るとしようか。——阿弥陀仏よや。

おおい。おおい。

再び浪の音 どぶりどぶん。

老いたる法師 あの物狂ひに出合つてから、もう今日は七日目ぢや。何でも生身の阿

弥陀仏に、御眼にかかるなぞと云うてゐたが。その後は何処へ行き居つたか、——おお、

この枯木の梢の上に、たつた一人登つてゐるのは、紛れもない法師ぢや。御坊。御坊。

……返事をせぬのも不思議はない。何時か息が絶えてゐるわ。餌袋も持たぬ所を見れ

ば、可哀さうに餓死うゑしんだと見える。

三度波の音 どぶんどぶん。

老いたる法師 この儘まま槽まに捨てて置いては、鴉の餌食にならうも知れぬ。何事も前世の因縁ぢや。どれわしが葬まううてやらう。——や、これはどうぢや。この法師の屍骸しがいの口には、まつ白な蓮華れんげが開いてゐるぞ。さう云へば此処へ来た時から、異香いかうも漂ううてはゐた容よう子すぢや。では物狂ものぐるひと思おもうたのは、尊たうい上じやう人にんでゐらせられたのか。それとも知らずに、御無礼を申したのは、反かへす反がへすもわしの落度らくどぢや。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

(大正十年三月)

青空文庫情報

底本：「現代日本文学大系」芥川龍之介集」筑摩書房

1968（昭和43）年8月25日初版第1刷発行

入力：j.utiyama

校正：earthian

1998年12月28日公開

2004年2月18日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

往生絵巻

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>